

### C-3 食器・調理器具の所有状態の法則性について

大防市大 ○上林 博雄  
下河内信子  
小山 幸子

1. 本住居学教室においては昭和26年以来食器・調理器具の所有状態に対する住居調査を数度重ね、夫々本学会・日本建築学会・住宅問題研究会・学部紀要等に発表してきた。これらの調査研究は階層別の標準住居の計画に資せようとするものであるが注、本小論では中間階層を対象として食器・調理器具の所有状態の法則性を求め、所有の標準を動的にとらえようとするものである。

2. 各調査の調査対象住戸の属性と所有との相関性を考慮する。ただし調査はいずれも実地立入調査によるもので、記入依頼調査ではない。

3. 都市職員階層において所有状態は以下のようになる。

- i) 家族数は殆んど相関性がない。
- ii) 収入も殆んど相関性がない。
- iii) 主婦の年齢は少しだけ相関性がある。
- iv) 主婦の学歴は極く僅か相関性がある。
- v) 住居の場的な制約を直接的にうける。
- vi) 消費革命の影響は序々にうけている。
- vii) 直接的に所有状態を支配する主婦の性格について数種のパターンが考えられる。

注：たとえば下河内信子、食器・調理器具の標準化について、本総会発表論文。